



有限会社 ビガーラスファーム

代表取締役 **市森 孝義**

富山県入善町

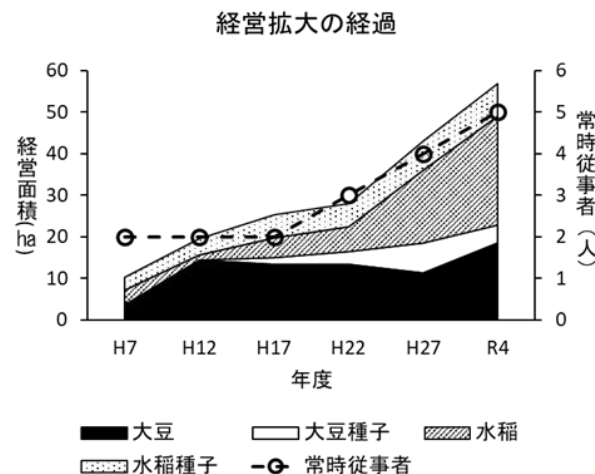
PRポイント：黒部川の清流で育てたおいしい大豆を消費者に届ける

設立年月：平成18年4月

構成員：5名（経営者夫婦2名、雇用3名）

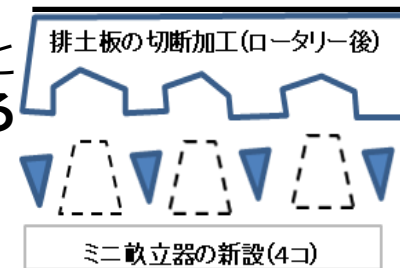
基幹作物：大豆21.9ha（えんれいのそら、シュウレイ）
（R5） 水稻38.2ha

特 徴：牛ふんや土壌改良資材による土づくり、排水対策の徹底、**品種特性やほ場の地力に応じた施肥**などに加え、**播種作業機を独自に改良**するといった創意工夫により、大規模ながら**多収・高品質な大豆の安定生産を実現**。畜産農家と連携して**地域資源の有効活用と積極的な土づくりを両立**するなど、**地域農業の振興に大きく貢献**している。



栽培のポイント

- 春先の荒代掻き作業と額縁排水溝の設置により排水性を高めるとともに畝立て同時播種による高畝栽培において、通常よりも高い畝を確保できるよう播種作業機を独自に改良。
- 1回目の培土は作業の速い中耕ディスク、2回目はロータリーカルチと作業機を使い分けることで的確に2回の培土を実施し、生育を促進することにより、単収を向上させるとともに、大粒比率を高めている。
- 自己所有のドローンを活用した、適期防除と省力化の実現。

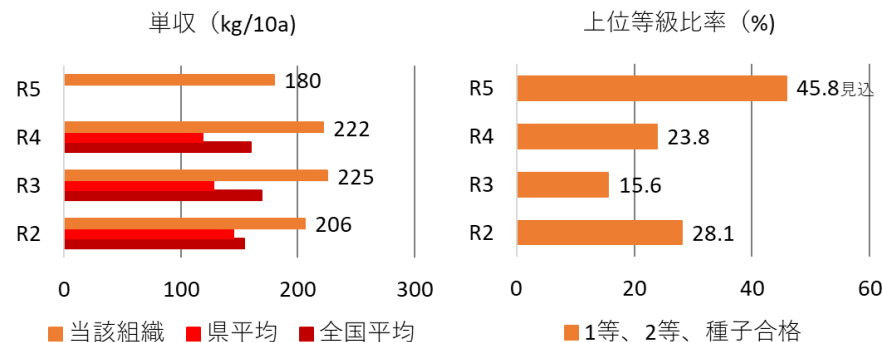


経営のポイント

- 20ha超に規模拡大した大豆ほ場は、地域と協力したブロックローテーションにより団地化しており、生産コストの低減を実現。
- 食用大豆（JAみな穂へ全量出荷）と種子用大豆（富山県種子協会と契約栽培）による多角化を進めたことで、作付面積は年々増加し、収量も安定化。これにより、経営の基幹作物として定着。
- 作業の効率化や労働時間の短縮のため、作付規模に応じた高性能機械（ドローン、は種機）を計画的に導入。
- 息子が従業員として新規就農しており、新屋地区の農業の担い手として地域営農の発展に貢献。

大豆生産の課題

- 開花期以降の高温により、青立ち株の発生や粒肥大に影響。**畝間かん水を着実に実施し、青立ち株の発生を防止、大粒比率の向上を図る。**
- 水田の生産調整率が40%程度と高いので、大豆の作付けによる地力の消耗が大きい。そこで、大豆を生産する圃場を優先的に**堆肥散布し、地力の維持に努める。**
- ドローンによる大豆の農薬散布は食用大豆17haのみであるが、さらに、**種子用大豆での防除効果を確認し、技術提案を行う。**
- **トラクタのGPS操舵の導入**など、さらなるスマート技術の導入等により作業精度の向上と効率化を図る。



今後の展望

- 今後も新屋地区を中心に**農地集積の拡大**を図っていききたい。特に、“**とやまの種もみ**”**産地として責任を全うし、さらに規模拡大を図る。**
- 面積拡大に伴い点在しているほ場の団地化を進めて作業の効率化を図るとともに、**他の担い手や地域と協力し、地域全体の効率的な土地利用に努める。**
- 経営面では、経営面積の拡大に合わせて**計画的に施設・機械の更新**を図るとともに、**雇用労力を確保する。**